

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 中津川工業高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和7年10月16日(木) 13:45～15:45
- 3 開催場所 中津川工業高等学校 仰星会館研修室
開催にあたり、委員による体育祭練習の参観を実施した。
- 4 参加者

会 長	早川 智晴	本校 同窓会長
副 会 長	堀川 明子	本校 育友会副会長
委 員	新田 正己	坂本地区民生委員長
	小池 菜摘	中津川市議会議員
	尾関里恵子	株式会社デンソーテン 中津川製作所
	柘植富士男	株式会社NSP S S
	世古晋一郎	三菱電機株式会社 中津川製作所
学 校 側	田並 正	校長
	田口 稔	教頭
	西尾ゆかり	事務長
	後藤 昭博	教務主任
	水谷健太郎	生徒指導主事
	山田 豪	進路指導主事
	佐々木邦生	工業部長

5 会議の概要(協議事項)

(1) 本年度の取組みについて

- ①教務部
- ②生徒支援部
- ③進路支援部
- ④工業部

(2) 学校評価の結果について

意見1:本校の応援合戦は伝統があり、素晴らしい取組みである。熱量をもって指導する生徒と、それに協力する生徒の姿が見られ、自主性が育まれている。この経験は、社会人として様々な活動の取組にも役立てることができ、非常に意義深く、今後も継続していくとよい。

意見2：インターンシップの実施において、生徒同士が互いに評価し合う姿が見られ、働く意欲の向上につながっている。行き先は生徒の進路希望と合致するように決定するとよい。また、体験内容を他の生徒と共有できるとさらによい。

意見3：生徒が長期欠席する背景として、いじめとは異なる要因、例えばハラスメントがあり精神的な負担を感じるケースはないか。進路変更の数を減らすためにも、適切な配慮がなされるとよい。

⇒ 本年度において不登校気味の生徒はいるが、ハラスメントが原因かどうかは不明である。

意見4：進路変更は例年より多いか。

⇒ 入学志願者が定員を割り込むようになって以降、中学生の進路希望との不一致や、人間関係の構築に課題を抱える生徒が増加している。

意見5：本校での学びを通じて、卒業後の就職において有利となる面がある。工業高校の教育内容や特色を中学校に伝えることで、中学生の進路選択における理解が深まるとよい。

意見6：中学校の教員に対して、工業高校の魅力を直接説明する機会はあるか。

⇒ 中学生1日入学やオープンキャンパスへの引率がなくなり、教員が本校の特色を直接聞く機会は減少している。現在は、生徒保護者向けの高校説明会の場で、中学校教員が付随的に情報を得る程度である。

意見7：学校評価アンケートを学年別に集計することで、生徒の意識や行動の変容をより的確に分析できるようになるため、学年別に集計するとよい。

意見8：本校は男子生徒の割合が高く、女子生徒の志願が少ない傾向にある。近年、ものづくりの分野でも女子が活躍する場面が増えているため、女子生徒が入学しやすい環境や仕組みを整えるとよい。

6 会議のまとめ

応援合戦を通じて自主性や協力する力が育まれ、インターンシップでは働く意欲の向上が見られた。進路変更や不登校傾向への配慮、中学校教員との連携強化、女子生徒の志願促進など、多様な視点から意見が出された。学校評価の学年別実施や進路希望に応じた指導の工夫など、今後の学校運営に活かすべき具体的な示唆が得られた。